

人らむたむ

防犯カメラ 増設に期待



「世の中の防犯意識は急速に高まっているが、この不況で防犯カメラの新規設置台数は伸び悩んでいる」と話すのは、国内唯一の８ミリフィルム防犯カメラメーカー、奥田商事（広島市西区）の奥田耕造社長。

「銀行も以前なら新店舗開設のたびに、新しく防犯カメラを購入していたが、今はコスト削減のため、統廃合で閉鎖した店舗の古いカメラを新店舗に回すようになつてきた」と漏らす。

国内の防犯カメラは八割がビデオカメラ、残りが写真で記録するフィルムカメラ。ただ金融機関の有人店舗閉鎖が進む一方、サービス低下を防ぐため、現金自動預払機（ＡＴＭ）は増えている。「無人店舗が増えれば、事件の備えに、ビデオと比べ解像度が高いフィルムタイプを採用する動きが強まるはず」と期待をつなぐ。

高齢者向け 事業本格化



「これからも試行錯誤は続くだろうが、必ず成功させたい」と話すのは広島県シルバー

福祉生活協同組合（福山市）の宮本正専務理事。昨年十月に知事の認可を受け、事務所の建設や人材確保などの準備を進め、二十六日、事業を本格化させる。

福山市内の経営者で組織する福山青年経営者協議会のメンバーとして、二年前からシルバー福祉生協設立計画に参画してきただけに、「やっとここまで来た」と感慨もひとしお。

近くホームヘルプや訪問入浴、宅配給食の事業を開始。三月からは高齢者向け食品や医療、介護用具などのカタログ販売も予定し、「一つひとつ実績を積み上げていきたい」と決意を新たにす。